

地域づくり表彰

団体名（埼玉県北本市）

合同会社 暮らしの編集室（埼玉県北本市）

合同会社 暮らしの編集室

代表社員

岡野 高志

1. 北本市の概要

JR 高崎線で東京から 50 分。埼玉県
の中央辺りに北本市はあります。

一見すると典型的なベッドタウン
ですが、実は旧石器時代から人が住
み続けている歴史のあるまち。そん
な北本市が近年、地域づくりの分野
で少しずつ脚光をあびています。

マチナカに次々とシェアキッチン
がオープンし、市役所ではマーケット
が開催され、魅力的なお店が少し
ずつ増えています。市内にある築 50
年、2000 戸の大型団地「北本団地」
では、シャッター商店街にユニーク
なお店がオープンし、若い入居者が
増えています。



北本団地商店街

2. 活動開始の背景・経緯

【活動概要】

暮らしの編集室は埼玉県北本市を
拠点に、新しいまちの可能性を生み
出す「まちづくりのチーム」です。
クリエイティブな発想でまちを見つ
め直し、北本市内外の魅力的なモノ
コトヒトを「つなげる」ことを目的
としています。

主に、空き店舗を活用したエリア
リノベーション事業を行っており、
2019 年には北本市の中心市街地
域にシェアキッチン「ケルン」をオ
ープン。その後、2021 年 5 月に 2 店
舗目となるシェアキッチン「北本団
地中庭」を北本団地商店街にオープ
ンし、2022 年 5 月には同商店街にシ
ェアアトリエ&ギャラリー「まちの工
作室 てと」をオープンしました。

その他にも、マーケットを通して
地元愛を醸成する「マーケットの学
校」など、北本市の移住定住プロモ
ーション事業に取り組んでいます。



北本団地中庭

3. 5 者連携によるプロジェクトチームの結成と実践

北本団地では、「北本市・UR 都市
機構・良品計画・MUJIHOUSE・暮らし
の編集室」の 5 者で連携し、「北本団
地活性化 project」として活動を行
いました。

北本団地には、団地中心部に 15
か所ほどの店舗付き住居の商店街が
ありますが、営業を行っているのは
数店舗であり、うち 10 か所ほどはシ
ャッターが閉まっている状況です。

団地商店街のシャッター街化、団
地住人の高齢化やコミュニティの希
薄化など、様々な課題を解決するた
めに、暮らしの編集室が地元プレー
ヤーとなり、まちの新しい可能性を
模索しました。



プロジェクトチーム結成！

4. 中の人。外の人。どちらも居場所となる地域づくり

北本団地の課題である商店街のシ
ャッター街化や住民の高齢化、コミ

ュニティの希薄化は、団地自体が団
地住民だけの場所として内向きに機
能してきた事に起因すると考えてい
ます。

暮らしの編集室では、自治会や居
住者の皆さんとのコミュニケーション
を取りながら、団地に住んでいな
くても、団地に関わる仕組み作り
を実践しています。北本団地へ様々
な形でかかわる関係人口を増やすこ
とで、将来的に団地住民を増やすこ
とや団地への愛着度向上を図り、長
期的な視点で課題解決を図る、地域
づくりのサイクル構築を目指してい
ます。

具体的には「北本団地中庭」がオ
ープンする一年以上前から、団地自
治会や団地商店街の皆さんと、団地
の良さや魅力を話し合うワークショ
ップ「北本団地未来会議」を数回開
催し、メンバーで話し合った団地の
魅力や要素から、シェアスペースの
方向性やコンテンツを検討してきま
した。もちろん、このようなワーク
ショップにも団地外の関係者に入っ
てもらうことで、様々なプレーヤー
が団地について考えていく試みを、
プロジェクト当初から実践してきま
した。

「北本団地中庭」のジャズ喫茶で
は、団地在住の方が多く来訪し、週
末のジャズライブでは団地外の方が
多く訪れます。また、中庭で開催さ
れている企画イベントも、団地に住
んでいない人や団体が開催している
ものが多く、北本団地への日常的な
関わりが生まれています。

新型コロナウイルスの影響で開催
できなかった、夏祭りの代替となる
子供向けイベントを、団地自治会と
様々なメンバーが協働して開催する
など、コミュニティサイクルの小さ
な芽が生まれています。

加えて、物件の改装には北本市の

「ふるさと納税型クラウドファンディング (GCF)」を活用し、200 万円以上の資金調達を達成しました。GCF以降に寄附者の方を改装したスペースに招き、お披露目会の開催や、定期的な情報発信を行うなど、多様な団地への関わりづくりに挑戦しています。

団地を住民だけではなく外にも開かれた場所として再生することで、コミュニティの輪が広がっています。



イベント開催の様子

○今後の展望と目標

「北本団地中庭」は 2021 年 5 月のオープンから一年余りですが、月間 20 日以上での営業を通し、様々な人が集うコミュニティの拠点施設として成長しています。この場所を起点として、北本団地商店街に 2 店舗目となるシェアギャラリー&アトリエ「まちの工作室 へと」をオープン(2022 年 5 月)しました。

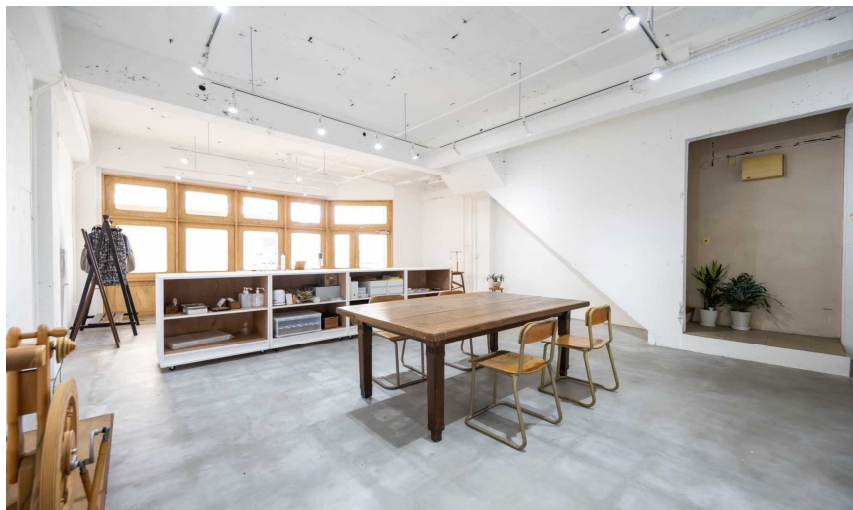
現在は、新たに陶芸とサボテンの店を開きたい方や、写真館を開きたいカメラマンと団地の空き店舗活用について調整を進めており、着実にエリアへの波及効果が生まれています。空き店舗等をシェアすることで、低い負担での開業を可能にし、起業・創業を希望する方の支援にもつながっています。

また、定期的なマーケットの開催や、公共広場を活用した防災イベントの企画なども調整を進めています。団地自治会や商店街とは、年に一度の大きなお祭りの企画会議を一緒に行うなど、ゆるやかにコミュニティサイクルが回り始めていると感じています。

この先 10 年・20 年という時間をかけて「この団地が大好きだ」と、私たちも含め胸を張って言える人を増やして行くことが、団地プロジェクトの目標です。



ジャズライブの様子



まちの工作室 へと



小さなマーケットから広がるコミュニティ